

深イ〜話!

No.77

かつてアメリカの州知事は白人ばかりがその地位を占めていました。
そんな中、1974年に日系人として全米初の州知事となったジョージ・アリヨシ氏
(第3代ハワイ州知事)。
初めて両親の母国・日本を訪れたのは第二次世界大戦後、間もなくのことでした。
そこで出会った靴磨きの少年との「感動エピソード」です。

私が最初に日本の地を踏んだのは1945年、第二次世界大戦が終わって間もなくのこと
とでした。

アメリカ陸軍に入隊したばかりの頃で、焼け残った東京丸の内の旧郵船ビルを兵舎にして
GHQ(連合国軍総司令部)の通訳としての活動を行ったのです。

私は日系アメリカ人です。

両親はともに九州の人で、福岡出身の父は力士を辞めた後に貨物船船員となり、たまたま
寄港したハワイが好きになってそのまま定住した、という異色の経歴の持ち主。
ここで熊本出身の母と出会って結婚し、私が誕生しました。

私は高校を出て陸軍情報部日本語学校に学んでいたことが縁で、通訳として日本に派遣
されることになりました。

東京で最初に出会った日本人は、靴を磨いてくれた7歳の少年でした。

私は思わず、

「君はどうしてそういうことをしているの」
と質問しました。

少し言葉を交わすうちに、彼が戦争で両親を亡くし、わずかな生活の糧を得るためにこの
仕事をしていることを知りました。

その頃の日本は厳しい食糧難に喘いでいました。それに大凶作が重なり1千万人の日本人
が餓死すると見られていました。

少年はピンと姿勢を伸ばし、はきはきした口調で質問に答えてくれましたが、空腹であ
るとすぐに分かりました。

兵舎に戻った私は昼食のパンにジャムとバターを塗ってナプキンに包み、他の隊員に分からないよう、ポケットに入れて少年のもとに走り、そっと手渡しました。

少年は

「ありがとうございます」

「ありがとうございます」

と何度も頭を下げた後、それを手元にあった箱に入れました。

口に入れようとしないうことを不思議に思って、

「おなか为空いていないのか」

と尋ねると、彼はこう答えたのです。

「僕もおなか为空いています。だけど家にいる3歳のマリコもおなかを空かせているんです。だから持って帰って一緒に食べるんです。」

私は一片のパンをきょうだいで仲良く分かち合おうとする、この少年に心を揺さぶられました。

この少年を通して「国のために」という日本精神の原点を教えられる思いがしたのです。

「いまは廃墟のような状態でも、日本人が皆このような気概と心情で生きていけば、この国は必ず逞しく立ち直るに違いない」

そう確信しました。果たしてその後の日本は、過去に類がないほど奇跡的な復興を遂げ、世界屈指の経済大国に成長しました。

通訳として日本に滞在したのは僅か2ヶ月です。しかし、私は今日に至るまでこの少年のことを忘れたことはありません。

日本に来るたびにメディアを通して消息を捜したものの、ついに見つけることはできませんでした。が、もし会えることがあったら、心からの労いと感謝の言葉を伝えるつもりでいます。

